



神戸天然物化学株式会社

**2020年3月期第1四半期
決算補足説明資料**

証券コード：6568

2019年8月9日



2020/3期1Q決算におけるポイント

- 1 2020/3期は期ズレの発生からスロースタート
- 2 特に1Qは、比較的採算の低い製品の売上が集中
- 3 一部製品の顧客サイドで競合が発生



- 1Qはスロースタート。売上高の伸び悩みと低採算製品の売上比率増から収支均衡
- 分野別には、バイオ分野が好調持続。一方、医薬分野では出荷の期ズレが発生
- 機材分野も売上減だが、これは当初計画通り。ただし、一部製品で競合が発生

経営成績の推移

(百万円)	2018/3期	2019/3期		2020/3期		前年比較	2020/3期 進捗率
		1Q累計	通期	1Q累計	通期見通し		
売上高	6,312	1,405	6,290	1,012	6,400	△27.9%	15.8%
機能材料分野	2,962	812	2,724	537	2,550	△33.9%	21.1%
医薬分野	2,881	355	2,355	226	2,700	△36.3%	8.4%
バイオ分野	468	237	1,210	249	1,150	+4.9%	21.7%
営業利益	1,222	325	1,240	△20	680	—	△3.1%
経常利益	1,208	348	1,285	1	730	△99.6%	0.2%
経常利益率	19.1%	24.8%	20.4%	0.2%	11.4%	△24.6pp	—
当期純利益	900	255	936	△3	530	—	△0.6%
EBITDA*	2,004	498	1,995	164	1,650	△67.1%	—
EBITDAマージン*	31.7%	35.5%	31.7%	16.2%	25.8%	△19.3pp	—

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



四半期別経営成績推移

- 機材分野は前年比では売上減少幅大きいですが、当初計画通りの進捗
- 医薬分野の期ズレの影響を除けば、売上は前年比で10%程度の減少。これはほぼ計画通りの進捗と認識

	2018/3期				2019/3期				2020/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	1,606	1,278	1,755	1,671	1,405	1,518	1,502	1,864	1,012
機能材料分野	710	755	605	891	812	694	615	601	537
医薬分野	866	439	945	630	355	552	567	879	226
バイオ分野	29	84	205	149	237	271	318	382	249
営業利益	388	239	443	150	325	188	268	457	△20
経常利益	405	246	434	123	348	197	265	472	1
経常利益率	25.2%	19.3%	24.7%	7.4%	24.8%	13.0%	17.7%	25.4%	0.2%
当期純利益	284	162	271	183	255	151	194	334	△3
EBITDA*	573	431	643	356	498	371	460	664	164
EBITDAマージン*	35.7%	33.7%	36.7%	21.3%	35.5%	24.5%	30.6%	35.7%	16.2%

* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出



- 自己資本比率は83.4%。財務安定性は盤石であり、実質無借金経営に変化なし
- 期ズレの影響は在庫に残る。出荷予定だった医薬分野の在庫が主として増加

財政状態の推移

(百万円)	2018/3期	2019/3期	2020/3期 1Q	前期末差異	増減率
流動資産	7,124	4,774	3,988	△786	△16.5%
現預金	5,413	3,072	2,220	△851	△27.7%
棚卸資産	975	1,097	1,436	+339	+31.0%
その他	735	605	331	△274	△45.3%
固定資産	5,563	7,227	7,094	△132	△1.8%
総資産	12,688	12,002	11,082	△919	△7.7%
負債	3,951	2,547	1,838	△708	△27.8%
有利子負債	2,256	978	938	△39	△4.1%
その他	1,695	1,569	900	△668	△42.6%
純資産	8,736	9,454	9,243	△210	△2.2%
負債純資産合計	12,688	12,002	11,082	△919	△7.7%

未払費用、設備費用、税金支払、配当支払、などに充当

期ズレにより、出荷予定であった医薬分野の在庫が主として増加

設備取得額：0.7億円
減価償却費：1.8億円

設備費用/税金の支払い進行により減少

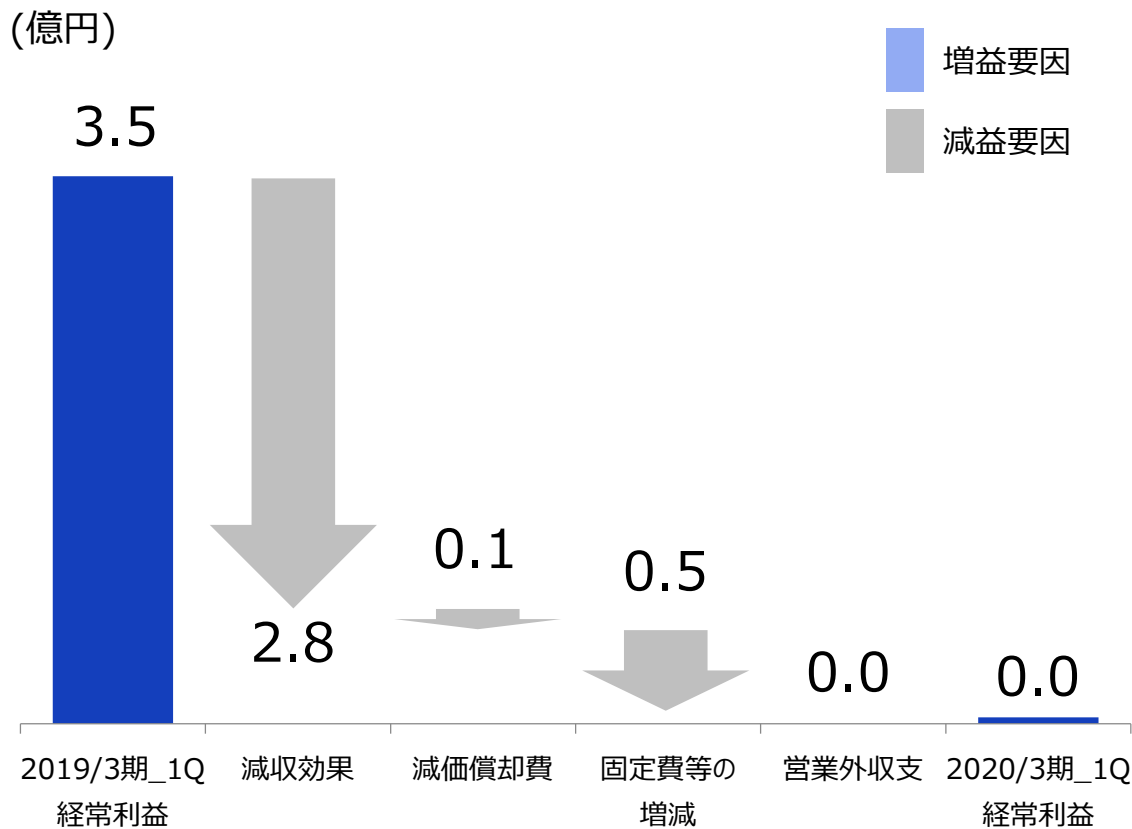
自己資本比率83.4%

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等を2018/3期の期首から適用したものと表示しております。



- 前年比では機能材料、医薬の減収が影響。業容拡大による人員増も利益を圧迫
- 医薬分野では期ズレ案件が発生。機能材料分野では開発売上で大型案件一巡に加え、一部製品の競合発生による需要低下

2020年3月期_第1四半期 経常利益の増減要因



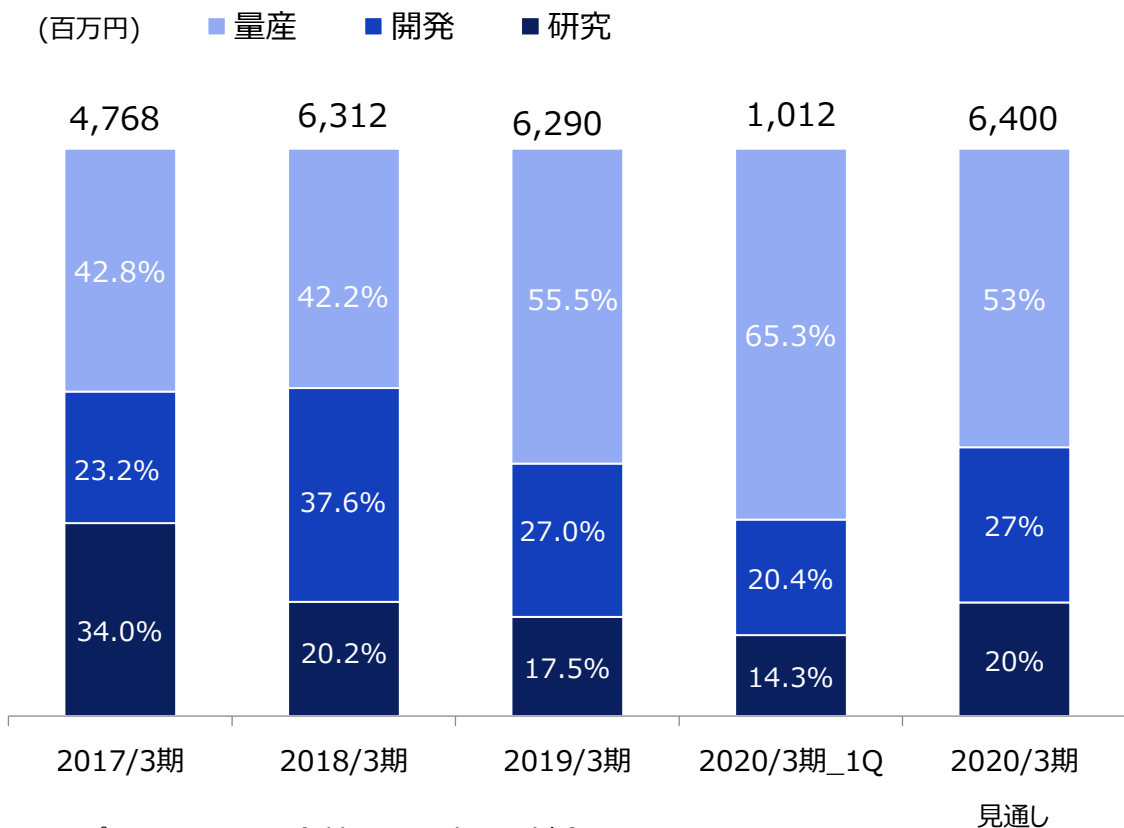
- 減収効果 $\Delta 2.8$ 億円
 機能材料分野：
 前年に在った高採算製品プロジェクトの一巡
 医薬分野：
 開発・量産の両ステージで売上期ズレが発生
- 減価償却費の増加 $\Delta 0.1$ 億円
 年間設備投計画 28億円
 (前年実績20億円)
 1Q減価償却費 1.8億円
- 固定費等の増加 $\Delta 0.5$ 億円
 人件費増 $\Delta 0.3$ 億円
- 営業外収支の改善 $\Delta 0.0$ 億円



ステージ別売上高比率

- 2020年3月期第1四半期は、量産ステージが売上高を牽引
- 一方、開発ステージは出荷の期ズレ発生により伸び悩み
- 対計画で見ても、量産ステージの伸長は想定どおり

ステージ別売上割合推移



- 全社ステージ別売上高は、開発ステージの出荷の期ズレにより計画を下回る
- 機能材料分野では、予定通りに量産ステージを中心に展開
- 医薬分野では、量産ステージ及び開発ステージの出荷の期ズレのため低調に推移
- バイオ分野は開発・量産ステージは計画とおりに進捗

※パーセンテージは全社売上に占める割合



- 1Qはスロースタートながら、通期見通しは現状据置き
- 競合増した一部製品の影響を吸収すべく、通期見通し達成に向け営業に注力に対応

1Qの主たる減益要因

<機能材料分野>

- ① 前期1Qにあった高採算製品プロジェクトの一巡
- ② 一部製品の競合環境激化

<医薬分野>

- ③ 一部顧客向けでの出荷期ズレ発生
- ④ 高品質要求対応のための立上げ一時コスト増



2Q以降の展開見通し

<機能材料分野>

- ① 期初予算織り込み済み
- ② 対象製品は限定的

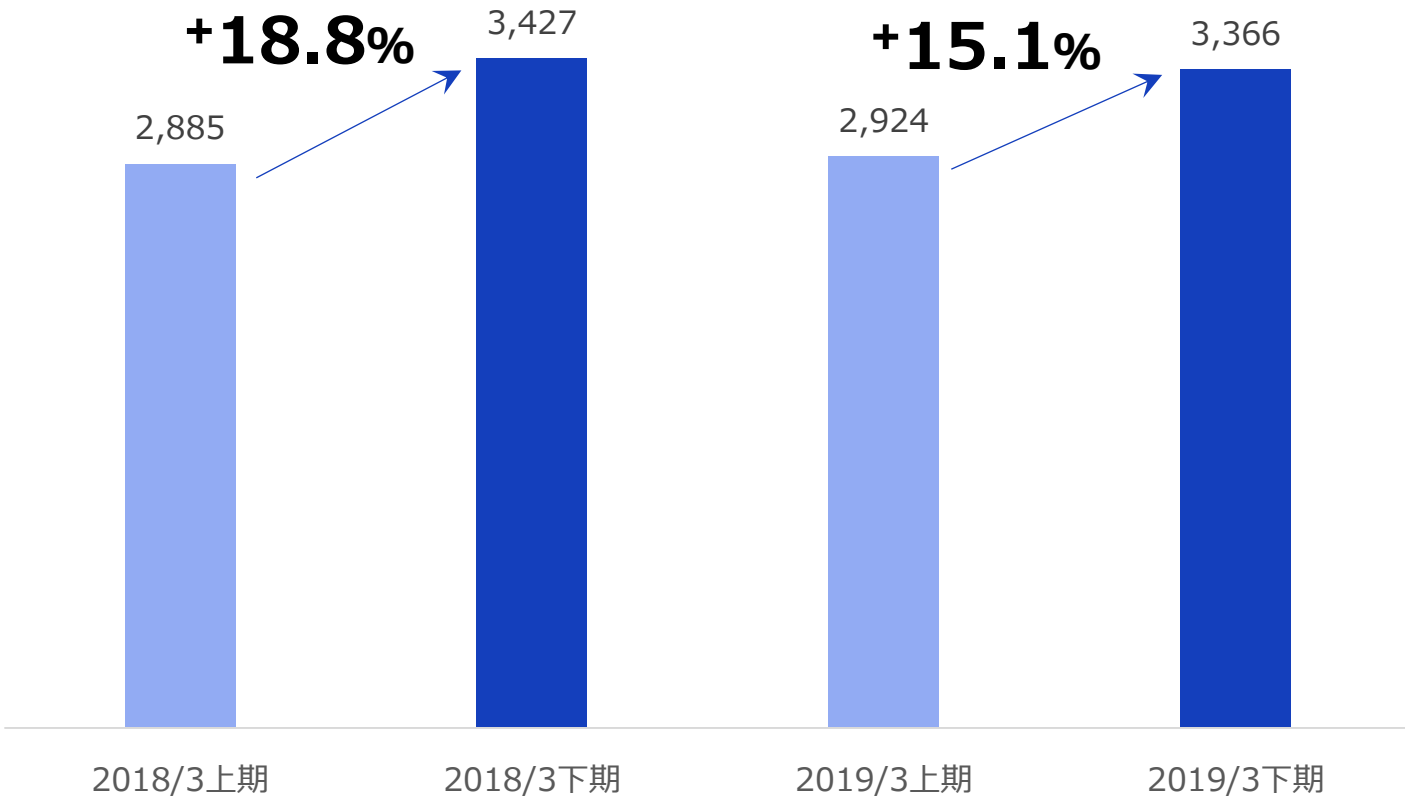
<医薬分野>

- ③ 2Qで出荷
- ④ 品質体制の確立に目途



- 売上高の平準化を進めてきたが、直近2年は15%以上の上下格差が発生
- 2020/3期も下期偏重型となる見通し

半期別売上推移





< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
経営企画室 IR担当
078-993-2203 (代表)
Knc-IR@kncweb.co.jp